
クリスマスの夜

留輝

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クリスマスの夜

【著者名】

ZZマーク

1

【作者名】

留輝

【あらすじ】

付き合い始めて初のクリスマス。
街中で夜のデートです。

12月25日 クリスマス

街はたくさんのカップルで溢れている。

そして、今この街中で歩いている俺らも、そのカップルの中の1つである。

付き合い始めて初めてのクリスマス。

去年まで「クリスマスはキリスト教のお祝いだぞ。なんでデートする日みたいになつてているんだ」と言つてていたのに、今年はしつかりデートを楽しんでいるのだろう。

ずいぶん勝手だな、と思いつつも仕方ないか、とも思つ。
……やつぱり“恋人”として“デート”できるのはうれしいことである。

ただ、周りからは“恋人”だとは思われていないだろう。

“友達同士”や“クリスマスなのに相手がいなくて可愛そうなや

つ”なのだろう。

「祥悟黙つてどうした」

「なんでもないよ」

隣から聞こえる恋人の声に応える。

俺にとつては大事な大事な恋人。

勝手だとは分かつていながらもクリスマスのデートを楽しんでいる相手もある。

ただ、周りからはそつは思われていないだろうけど

“男同士”

これから、俺らに一生付きまといそうな問題。

「なんでもないって、さつきから黙つてるだけじゃないか」「別に」

ふと顔を上げると、田の前でいたやつく男女のカップル。

自分も、クリスマスの夜、街中にいるカップルの中の1人ではある。

しかし、男同士なのでいやいやなど決してできない。
だから、こうも目の前でいやつかれるといらっしゃうとするわけである。

「……キスする？」

「おまえは何言つてるかわかつてるとか！？」

恋人である慎司の提案に思わず叫ぶ。

少し前を歩くカップルが驚いたように振り返ったが、慎司の提案

に對してなんか俺のバカでかい声に對してなんかはわからぬ。

「おまえ、街中で何言つてんだ。人に聞かれたらどうするんだよ」

「だつて、祥悟がキスしてほしそうだったから」

「なつ！ バカなこと言つなよ」

そう？ などと本当にバカなことを言つ恋人。

でも、少し驚いた。

なぜなら、俺らも堂々といぢやつきたい、などとバカなことを考
えていたからである。

畜生、女々しいな……。

慎司と付き合いだしてからたびたびある「の」のような考えに、自分

でもイライラする。

「そう怒るなつて。本当は俺だつていぢやつきたいんだよ」

「……なんで考えることわかるんだよ」

「祥悟が好きだから、かな」

二口二口と笑いながら、俺の心にストンとあいつは入つてくる。

俺だけすごくガキみたいでむかつく。

だから、少しだけ仕返しのつもりで、冷え切つた俺の手をあいつ
の手に近付ける。

すると、やつぱり二口二口しながら俺の顔を見てくる。

「祥悟かわいい」

「……あつそう」

男にかわいいって言われても嬉しくない、そういうつもりが。

……嬉しいとか俺らしくないことを…

「耳まで赤い」

「うざい」

「祥悟から手つないでくれるとはなー」

相変わらずニコニコと笑う恋人。

「……慎司が、好きだから」

「俺も祥悟のこと好き」

12月25日 クリスマス

楽しそうにいちゃつくカップルの中に、俺たちの姿もあった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7895z/>

クリスマスの夜

2011年12月25日13時48分発行